

羅臼岳登山道ヒグマ人身事故を受けた対策の検討状況

1. 羅臼岳におけるヒグマによる人身事故検証等の体制

令和7年8月に羅臼岳で発生したヒグマによる人身事故に係る検証は「知床ヒグマ対策連絡会議」において実施している。

※知床ヒグマ対策連絡会議

環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道・羅臼町・標津町
公益財団法人 知床財団・斜里町（R7年度事務局）

2. ヒグマ対策連絡会議等の開催状況

6月10日 第1回（定例回）

8月14日 事故発生

8月22日 ヒグマWG座長・エコツアーWG座長との打合せ（オンライン）

8月27日 第2回

- ・知床峠（国道334号）頂上 駐車場閉鎖について（情報共有）
- ・事故検証報告書の作成体制、構成について
- ・事故検証報告書の速報版の公表と記者会見の実施について

9月8日 第3回

- ・事故検証報告書（速報版）の内容確認
- ・9月11日実施記者会見の進行、担当、質疑等について

9月11日 記者会見

10月17日 第4回

- ・事故検証報告書の作成について（事故の要因分析、検証の論点）
- ・事故を受けた再発防止対策の体系とパッケージ（意見交換）

11月18日 第5回

- ・事故検証報告書の作成について（草案）
- ・再発防止対策パッケージについて
- ・ヒグマ管理計画の見直しについて

12月9日 第6回

- ・事故検証報告書について
- ・再発防止対策の進捗について
- ・ヒグマ管理計画の見直しについて

12月16日 第7回

- ・12月24日事故検証会議の進め方、資料分担について
- ・再発防止対策の進捗について
- ・年度末までの中期スケジュールについて

12月24日 検証会議

3. 今後のヒグマ対策連絡会議等の開催予定

1月以降、世界自然遺産関連会議（科学委員会・WG・地域連絡会議 等）が予定されており、適宜状況・方針等を示し助言を貰い、反映等の検討を行う事としています。

○今後の主な会議

- 1/14 適正利用・エコツーリズム検討会議 カムイワッカ部会（本会議）
- 1/20 知床ヒグマ対策連絡会議（第8回）
- 2月 知床ヒグマ対策連絡会議（第9回）
- 2/中旬 科学委員会ヒグマWG（第2回）
- 2月 知床世界遺産施設等運営協議会 総会
- 3/上旬 世界遺産科学委員会
- 3/中旬 適正利用・エコツーリズム検討会議・WG
- 3/下旬 地域連絡会議

4. 基本的な考え

登山口の閉鎖解除に向け、各機関で対策を検討している最中である。

羅臼岳に至る登山口は①岩尾別温泉 ②羅臼温泉 ③硫黄山登山口 があり、再発防止に向けた取組を講じたうえで閉鎖解除に至れるように協議・調整中である。大きく分けると、利用者への情報提供・ヒグマの問題個体への対応について検討・協議中。

羅臼岳登山道ヒグマ人身事故の検証の方向性

2025 年 9 月

知床ヒグマ対策連絡会議

1 検証の体制

事故の検証は、「知床半島ヒグマ対策連絡会議」で行う。同会議は、「知床世界自然遺産 地域連絡会議」の部会に位置づけられ、第二種特定鳥獣管理計画「北海道ヒグマ管理計画」の地域計画である「知床半島ヒグマ管理計画」に基づき、知床のヒグマ対策の推進やモニタリング等の実施を目的として設置されているものである。同会議の構成団体と本件事故対応に関わる主な役割分担を下表に示す。

事故の検証や再発防止策の策定にあたっては、専門的な観点からの助言やチェックを受けるため、有識者により構成される知床世界自然遺産地域 科学委員会 ヒグマワーキンググループ（座長：佐藤喜和 酪農学園大学教授）および適正利用・エコツーリズムワーキンググループ（座長：愛甲哲也 北海道大学教授）の助言を得ながら検討を進める。

表 知床半島ヒグマ対策連絡会議の構成員と本件事故対応に関わる役割分担

構成機関	本件事故対応に関わる役割分担
環境省釧路自然環境事務所	国立公園管理に関わる事務、専門家（有識者）との調整
林野庁北海道森林管理局	国有林野に関わる事務
北海道	事故調査および試料等の分析（ヒグマ対策室）
斜里町	ヒグマ対策連絡会議の開催（事務局）、ヒグマ人身事故斜里町対策本部の運用、被害者支援
羅臼町	登山者（羅臼側）への注意喚起、町民等への情報発信
標津町	町民等への情報発信
公益財団法人 知床財団	事故調査、事故情報とりまとめ、ヒグマ対策に関わる情報提供

2 事故原因の要因整理

事故原因について、事故の発生に至った直接要因、登山者の意識、登山者に対する情報発信や注意喚起、登山道の管理などの間接要因、知床半島におけるヒグマ個体群の動態の変化、利用者の行動といった背景要因の3つの観点から整理する。

3 対応の検証の方向性

対応の検証は、以下の3つの観点から行う。

(1) 事故対応について

- 登山道における問題個体確認時の対応
- 登山利用者への情報提供・注意喚起
- 事故発生時の体制

(2) 事故発生の背景について

- 問題個体対応
- 知床自然遺産利用者全体への情報提供

(3) 知床半島ヒグマ管理計画について

4 再発防止策の検討

検証結果を踏まえ、再発防止に向けて取りうる以下のような対応を整理する。(下記は現時点で考えられる対応の選択肢の一例)

- 事前準備や行動形態、装備といった登山者に求める事項（登山のルール・規範）
- ルールを知らしめ、行動変容に結び付けるリスク情報の提供のあり方（情報提供）
- 入下山管理、レクチャー受講、装備チェックといった強度の高い管理のあり方（利用者管理、アクセスコントロール）
- 登山道における問題個体確認時の対応の判断基準、協議体制、対応策の具体化（施設管理）
- 登山道におけるヒグマの追い払いや捕獲などのあり方（ヒグマ管理）
- 事故発生時の対応のあり方、被害拡大防止のための方策（危急時対応）
- 上記対策の優先度 など